

恒例の新年宴会開催!!

平成三年新年宴会が、去る二月二十五日午後六時から、ホテル函館ロイヤルにおいて、来賓・組合員・事務局職員等約百六十名が出席して開催されました。

まず関係物故者に対して黙祷を捧げたあと、大倉理事長が『北海道電力(株)も泊原子力発電所が一段落して私共内線業者と協力できる環境ができた。引込以下工事の新設に対して、北海道電力(株)がさらに経費などを上乗せしてくれるようお願いしたい』とあいさつし、『新年は基礎固めの年』と強調しました。

次いで、来賓あいさつとなりましたが、出席予定の阿部文男、佐藤孝行、鉢呂吉雄各衆議院議員が、国会開催初日ということで欠席(それぞれ代理者が出席)されたため、木戸浦隆一函館市長(時田可生テクノポリス推進室長が代理)と北海道電力(株)黒田正夫函館支店長のお二人より頂戴しました。

引き続き、坂本事務局長がご臨席の来賓各位のご芳名を朗読紹介し、出席組合員の拍手で歓迎しました。

このあと、昭和四十七年五月から十八年間に亘り、理事・監事を歴任し、昨年五月に役員を退任した平井行衛氏(株平井電気)に対して大倉理



事長から記念品が贈られました。

このあと、北幸電工(江差支部)、沢谷電工(北支部)、外山電工(中支部)、(株)エム・アーク(赤川支部)の新組合員四人が紹介され祝宴に入りました。

祝宴は、北海道電力(株)平尾康二函館営業所長(高木宏幸次長が代理)の祝杯ではじまり、アトラクションは五年振りに北海道電力(株)と九支部の代表十名によるカラオケ大会が坂本事務局長の司会で賑やかに行なわれ、紅一点の西支部代表北日本電建(株)社長夫人をはじめ各チーム代表者の熱唱に割れんばかりの声援をおくり祝宴を盛りあげました。

こうして、午後八時十五分北海道電気資材卸業協同組合島谷晃函館支部長の首頭により、関係者一同の益々の繁栄と健勝を祈念しての乾杯で、無事終宴となりました。

組合員の異動

|| 組織・代表者・住所の変更 ||

(新) (旧)

- 一、(南)ツカ電工(西支部) ツカ電工
- 一、(南)松田電設(中渡島支部) 松田電気商会
- 一、(株)サントウ工業(中支部) (南)サントウ工業
- 一、(南)古海電気商会(福島支部)
 - 代表取締役 古海京子 代表取締役 古海久生
- 一、山内工業(株)(八雲支部)
 - 代表取締役 山内尊洲 代表取締役 山内栄
- 一、山崎電気商会(株)(八雲支部)
 - 代表取締役 尾形勇吉 代表取締役 山崎 正
- 一、(株)五稜郭カスガ(赤川支部)
 - 函館市亀田中野町 函館市杉並町六一
- 一、(南)東栄電気工業(赤川支部)
 - 函館市東山二丁目 函館市東山二丁目
- 一、(南)高橋電工(赤川支部)
 - 函館市東山三丁目 函館市鍛冶一丁目
- 一、あまや電気工事(東支部)
 - 函館市上野町三一・四 函館市東山三丁目



役員会だより

第八回役員会

三・二・八

一、慶弔報告

- (1) 松崎電気工業所代表者怪我入院見舞
- (2) (有)岡田電気商会代表者ご尊父逝去
- (3) (有)吉岡電気工業所代表者病氣入院見舞
- (4) (有)高野電気工業所代表者病氣入院見舞
- (5) 新響電気商会代表者病氣入院見舞
- (6) (有)古海電気商会代表者逝去

二、貸付報告

七社 二九〇万円

三、各支部報告並提案事項

各支部それぞれ支部会議、新年会を開催した。

四、総務委員会事項

- (1) 永年勤続者表彰式について
- (2) 新年会について
- (3) 事務局冬期手当の支給報告について
- (4) 道協同組合連合会々長表彰について
- (5) 安全管理手数料収入について
- (6) 北海道電気工業事業工業組合総代会について
- (7) 組合新規加入申込について

五、技術委員会事項

- (1) 主任電気工事士研修会について
- (2) 経営近代化研修会について
- (3) 計測器受払業務受託件数について
- (4) 先方電気工事の改修について
- (5) 第一種電気工事士腕章(ワッペン)の着用について

六、事業委員会事項

- (1) 第三者損害賠償制度加入状況について
- (2) 住友グループ共済制度加入状況について
- (3) 大同生命団体共済制度の配当金について
- (4) 全日電工連第三者損害賠償制度の見直しについて

第九回役員会

三・三・二八

一、慶弔報告

- (1) 半沢電器商会代表者ご尊父逝去
- (2) (株)平松電気工務所代表者怪我入院見舞
- (3) 事務局中村職員ご尊父逝去
- (4) 山崎電気商会代表者逝去

二、貸付報告

八社 三八〇万円

三、各支部報告並提案事項

各支部それぞれ会議を開催、特記事項なし

四、総務委員会事項

- (1) 代表者の変更について
 - (有)古海電気商会 古海京子(古海久生)
 - 山内工業(株) 山内尊洲(山内 栄)
- (2) 渡島支庁による電気工業法立入検査の結果について
- (3) 平成三年度通常総代会の日程について
- (4) 組合新加入申込の審査について
- (5) 労働時間短縮に伴う週休二日制について
- (6) 電気安全表彰者の推せんについて
- (7) 譲渡・譲受による加入申込について
 - (有)ツカ電工——ツカ電工 (承認)

五、技術委員会事項

- (1) 主任電気工事士研修会について
- (2) 国家資格に直結するものと誤認しやすい民間団体の実施する講習会等について
- (3) 計測器受払業務受託件数について
- (4) 先方電気工事調査結果、不良多発者の処理について

六、事業委員会事項

- (5) 第二種電気工事士試験準備講習会の開催について

- (1) 国民年金(職能型)に対するアンケートの実施について
- (2) 厚生年金基金の加入拡大について
- (3) 保守管理業務契約の拡大について

組合員の消息

- 一、十二月中旬
 - 新響電気商会代表早瀬勝男殿病氣入院(一月下旬退院)
- 一、十二月下旬
 - (有)高野電気工業所代表取締役高野末勝殿病氣入院(一月下旬退院)
- 一、一月下旬
 - (株)平松電気工務所代表取締役平松竜太郎殿怪我入院
- 一、二月中旬
 - 東和電気工事代表長谷守殿怪我入院
- 一、三月中旬
 - (株)北電工代表取締役小林幸男殿病氣入院

- 一、一月一九日
 - (有)古海電気商会代表取締役古海久生殿逝去
- 一、二月 九日
 - 半沢電器商会代表半沢悦男殿ご尊父半沢久七殿逝去
- 一、三月三日
 - 山崎電気商会(株)代表取締役山崎正殿逝去
- 一、三月二八日
 - (株)吉浦電気商会代表取締役吉浦孝悦殿ご母堂吉浦ゆり子殿逝去
- 一、四月 七日
 - (有)七尾電気工業代表取締役七尾拓実殿ご母堂七尾政枝殿逝去

組合行事

1月7日 御用始め

12日 自衛隊退職者雇用協議会新年会に坂本事務局長出席

18日 いなづま編集会議

2019年 中渡島支部研修旅行（青森市）

22日 東支部会議兼新年会

24日 道工業組合役員会に大倉理事長、吉田副理事長出席（於札幌協）

全日 江差支部会議兼新年会
25日 組合新年会（於ホテル函館ロイヤル）

2月3日 道工業組合島津孝吉理事長勲五等瑞宝章叙勲祝賀会に大倉理事長、吉田副理事長出席（於ホテル札幌ロイヤル）

4日 北海道電気工事業厚生年金基金役員会・代議員会に大倉理事長出席（於札幌協）

7日 中小企業団体中央会講習会に坂本事務局長出席

8日 第八回役員会

9日 組合青年部研修旅行（東京都）

10日 東支部会議

15日 西支部会議

19日 検満工事業者研修会

22日 道工業組合役員会に吉田副理事長出席（於札幌市厚生年金会館）

全日 道工業組合通常総代会に吉田副理事長外理事八名出席（於札幌市厚生年金会館）

3月5日 渡島支庁による電気工事業法立入検査

3月12日 商工中金函館支店新旧支店長歡送迎会に坂本事務局長出席（於ハーバービューホテル）

全日 赤川支部会議

1413日 北電々気使用申込書記入説明会

15日 平成三年度主任電気工事士研修会（詳細別掲）

2018年 渡島支庁による電気工事業法立入検査

平成三年度主任電気工事士研修会

主催 北海道電気工事業工業組合

函館地方電気工事協同組合

後援 北海道通商産業局

北海道

北海道電力株式会社

（財）北海道電気保安協会

議題および講師

一、平成元年度電気事故の概要

付||昭和六十三年度電気事故統計（全国）

22日 渡島支庁による電気工事業法立入検査

25日 正副理事長会議

2726日 定期健康診断の実施（受診者二二五名）

28日 第九回役員会

29日 函館市安全推進表彰式に吉田副理事長出席

30日 経営近代化研修会

二、電気設備技術基準、電気用品の技術基準及び高圧受電設備の施設指導要領の改正について
北海道通商産業局公益事業部施設課 東川係長

三、電気工事二法の概要と諸手続について
渡島支庁経済部商工労働課 上野主事

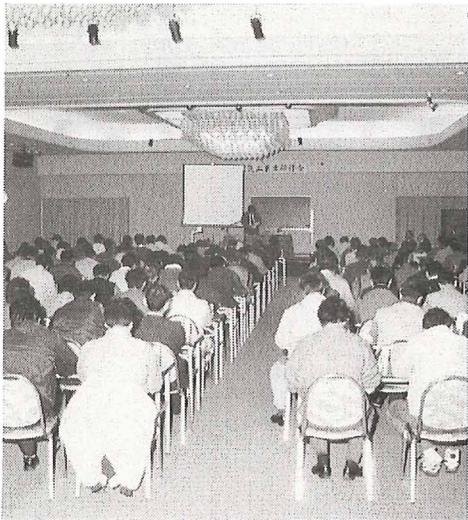
四、内線規程の主な改定点について
五、二〇〇V屋内配線の手続きについて
六、時間帯別電灯料金制度と内線工事等について
北海道電力(株)函館営業所配線課 青木副長

七、電気事故の防止について
（財）北海道電気保安協会函館支部 浜村代理

第八回目の主任電気工事士研修会が、三月十五日ホテル函館アカシヤを会場として開催、前回（平成元年度）の最高出席数を上回る百八十一名が受講した。

佐藤副理事長の開講あいさつに次いで前記議題に順じ四名の講師により、午後一時から午後五時までの四時間に亘り講義が行なわれ、最後にアンケート調査を実施して終了した。

なお、受講者には、後日組合から受講証を交付してありますので、立入検査の際に提示されるようお願いいたします。



◇ ◇



中国文化のルーツ 日本文化のルーツ

平沼留子

酒

日本の文献の中から『酒』に関するものをいくつかあげると、葛西善藏という人の言がなかなか味がある。「酒はいいものだ。実においしくて毒の中では一番いいものだ」といった。

兼好法師（吉田兼好）という鎌倉時代（人）は

「百薬の長とはいえどよろづの病は酒よりこそ起れ」とこれも手きびしい。さて中国のルーツはどうか。

果実酒

酒は人類の文化を象徴するものの一つである。中国文化の歴史の中で酒は何時ごろ人類の口に入ったのだろうか。

『明』代の人で周旦老の書に『蓬櫛夜話』というのがある

……高山には猿が多く春夏のころ果物を採って石の窪みに詰め酒をかます。その香り四方に発し遠方まで漂う……

とある由、黄山の猿は酒を作り酔っぱらったのだろうか。

『清』代（人）の著書にも

……平蕪などの山中には猿がきわめて多くよく百花を摘んで酒をかます。山に入った樵がその巢穴を見つけて酒数石を得た。飲んでみるとすばらしい味だ。これを『猿酒』と呼んだ。……

しかし、猿が酒を作ったという事は猿が意識的に行ったとは考えられない。花や果物が堆積して更に雨

などの自然の条件の中で、偶然に発酵して出来たものと考えられる。しかし『原始時代の猿人』が目的をもって果物を摘み、酒を作ったという事はあり得ることだ。従って糖分のある果物を摘んで酒を作ったという事は猿人時代に始まったと推断している学者もいる。もし『猿人』時代に現在の果実酒（ワイン）を作っていたとすれば百万年前の事となる。

天然の果実酒はかなり長い歴史があるが、果実酒の醸造となるとずっと後になる。古代エジプト人は五千年以上も前にすでにブドウ酒を作ることが出来、西方の酒神『ディオニソス』も四千年前にすでにあちこちでブドウ酒を作る技術を人々に伝えたといわれている。しかし中国ではシルクロードが開かれて後、今から凡そ二千年前によく西域から入ったブドウ酒を飲み始めている。

当時の中国ではブドウ酒は皇帝の口に入っても一般の庶民には入らなかつたのだから。私が三回目の訪中のときこのワイン作りの町をたづねた。そこはトルファンである。現在でも中国にとつてトルファンは西域である。人々の鼻が高く目が青かつたのが印象に残っている。勿論本場のワインを飲んだが文句なしに一級品だった。

穀物酒

中国では穀物酒は相当早くから作られた。『晋』の人江統が書いた『酒話』という本の中に……酒の興りは上皇に始まり帝女のときに成熟した。

残飯を桑の木の下に捨てておいてしばらくすると味がついて香りが漂う……と

穀物による酒づくりが残飯の発酵によつたという見方は大変見識がある。この本の著者郭伯南氏が言っている。江統は「上皇に始まった」と見ているが上皇とは上帝、伝説では「天地が出来てもなく上帝は生まれた。……その兄弟は十二人、それぞれ一万八千年生きた」という事である。この話は言い換えれば「酒は天地開闢以来、つまり人類発生以来である」という事になる。この理由は人間がいれば飯を食はねばならず、残飯があれば酒があつたという事になる。果実酒は猿人時代に始まったという学者の見解はこの江統の著書の起原と同じである。この世に人類が出現した時から酒はあつたと見ても大差はないのであろう。

中国の人類史は最近雲南省の元県で発見された『東方人』を以つて始まるとすれば、少なくとも二百五十年であり、先住民が穀物を食糧とした歴史は原始農業の時から計算してもわずか一万年前後、『上皇』猿人』よりもずっとおそくなる。

では、穀物による酒づくりの始まったのは一体いつ頃なのだろうか。現在、研究の結果でわかっている事は黄河流域でもっとも早く栽培された穀物は『粟』で少なくとも八千年余の歴史があり、長江流域でもっとも早く栽培されたのは秈稻（うるち米）で少なくとも七千年の歴史がある。つまり穀物で酒づくりをする基本条件は七・八千年前に備はつていたと言える。

それでは、穀物があれば酒がつくれたと簡単にイコールが出るのだろうか。

黄河流域の原始文化（大汶口文化と崑山文化）遺跡で大量の酒器が発見された。例えば、穀物の発酵に使用された広口の陶樽、濾過用のかめ、酒入れ用の陶盆、酒を蓄えておく陶製のかめ、酒をあたためる陶甗、それに酒を飲むための陶杯など、考古学者の報告によれば泰山のふもと、大汶河畔で発見された大汶口遺跡で出土した酒器は二百六十八点、出土品総数の二六・四パーセントを占めているとの事である。この事からも六

千年余も前に黄河下流に住んでいた先住民は酒づくりを知っていただけでなく、その生活の中で「飲酒」があり重要な役目を持っていたと思われる。これは酒づくりの初期ではなく酒づくりがかなりの規模で行なわれていた事を示している。

長江下流浙江省余姚河姆渡原始文化遺跡で大量の「稲もみ」が出土すると同時に酒器も発見された。酒をあたためる陶鬲、酒を注ぐ酒盃、酒を飲む陶杯、考古学者の研究の結果は、これらの出土品が現在中国で発見された最も古い酒器であると断定している。もしこの鑑定に間違いがなければ中国の穀物酒の歴史は少なくとも七千年前という事になる。

穀物による酒作りの始まりは専用の酒器出現よりもっと早いであろうと推定することが出来る。原始農業と同じくらいに開始されたとすれば今から一万年はさかのぼる事になる。

私もこの項を読んでそうだと思う。酒器は必要があつて次々と作られた事と思うので、三千年程の間に陶樽、かめ、酒盃、杯など順次作られたのだらうと思う。奈良シルクロード博覧会のと、札幌で「黄河展」を見た。黄河流域の出土品の酒器の数々は出来栄えは実に見事で表面に文様が浮き出ており原始時代のものとは到底思えなかつた。酒器は原始時代から相当の年月を経つてから作られたものと想像される。

麹

造酒用の麹は微生物を発見利用した古代中国の技術の成果の一つであり、世界に醸造技術に対する一大貢献である。

穀物による酒の醸造には糖化、酒化の二つの過程があり、麹は糖化力の強い糸状菌酵素である。穀物の酒化を加速する酵母もあり、麹で酒づくりをするには二つの過程を一つにして同時進行をするので複式発酵法とも呼ばれている。

ではいつ頃から麹を使用して酒作りを始めたのだろうか。文献によると「商」の時代の武丁王以前にあつ

たようだ。「尚書・商書」に次のような詩がある。

若作酒醴 爾惟麴蘖 若作和羹 爾惟塩梅

この詩の意味は「私が酒だとすればお前は麴であり、私が肉のスープとすればお前は調味料の塩と梅である」と。この事から武丁王以前に麴で酒を作っていたことがわかる。

一九七三年、河北省藁城県台西で発見された「商」時代の酒作りの作業場の跡で、酒作りの道具一式と大量の麴が出土した。麴は出土した時は薄灰色を呈し水垢の状態の沈澱物だった。中国科学院微生物研究所の鑑定ではそれは人工培養になる酵母の残骸であり、今から三千四百年ほど前のもの、武丁王の時代よりも二百年も早いことを確認した。

帝女(儀狄)

さて麴の発明以前はどのようにして酒を作つたのだろうか。中国民族学の資料によれば、麴使用以前は「爵米為酒」唾液で穀物を糖化させて酒を作るという方法だった。「明」の人陳繼儒の書「僊曝談余」にこう出ている。

……流球の酒づくりは米を水に漬けて一夜過ぎると女が口でかんんだり、手でもんだりする。その汁を取って酒をつくる。これを米奇という……と

ところで日本の古代でも全くこれと同じであつたようだ。未婚の女性がかんで酒を作り神に供えたと書いてあつたのを読んだ事がある。女がかんだりもんだりする事になると中国の酒神「帝女」の舞台となる。では帝女とはどのような人だろうか。

『戦国策』という古書に「帝女儀狄はその作った酒が美味なので「禹」に献上した。禹が飲んで見ると甘かつた」とある。

帝女は儀狄といふと同時代の人である事がわかる。四千年前の甘い酒を作る名人だつたのだらう。「西周」の王家の中で酒作りの技術を身につけていた者はすべて女であつたと言う事もうなづける。

現在の中国で南方では自家製の米酒作りはほとんど

家庭の主婦である。西方の酒神は男性であるのに東方の中国では酒神は女性であるのは面白い対象だ。此処で説明しておかなくてはならないのは帝女が作った酒はもち米を原料とした「黄酒」の前身であつたという事である。それで酒造家は黄酒を「国酒」と称し、その歴史は儀狄に始まり、四・五千年経つていると言っている。

秫酒の神

中国にも男の酒神がいた。「杜康」という。杜康は何時ごろの人か、西周の人だと言う説、禹の五代目の孫小康であるという説もある。しかし文献によればいくつかの古書に「小康は秫酒を作つた」という点では一致している。

さて、それでは秫とは何であろうか。これは粘り気のある高粱のことである。秫酒とは高粱で作つた酒の事である。高粱酒は白酒(焼酎)の前身だと言はれ、中国では五千年の前から高粱を栽培していた。これは河南、山西、甘肅などで出土した遺物によつて実証されている。凡そ四千年前の先住民が、酒を作る事が可能であつたという事である。この話は納得出来る。中国で焼酎を作っている人達は杜康を尊崇し神のように信奉している。しかし杜康が焼酎の創始者とはまだ断定出来ないようだ。一九七五年、河北省藁城西山嘴村の遺跡から完全な銅製の酒を温める鍋が出土した。

『金』時代のもので少なくとも一六二二より以前のものとされておられ、研究者はこの鍋の形と原理から中国古代の練丹(不老不死の薬)に使用した道具に類似している点から分析して、これは古代練丹術を基礎として発展した焼酎を作る道具ではないかと推察している。

薬酒

薬酒の歴史は相当古く数年前河北省平山で出土した戦国時代の中山古酒には、織維状の物が漬かっていた。二千三百年も前の薬酒であるかも知れないとの事であ

青年部研修旅行

る。以上

以上の事から、中国の酒は黄酒と白酒に大別され、白酒は蒸留酒で黄酒は醸造酒である。『老酒』は黄酒

の別名である。『紹興酒』は『黄酒』のうち生産地が紹興だからこのように言う。

平成三年は二年に一回の研修旅行を実施する年に当り、昨年十月頃から研修先等について討議を重ねてきましたが、なかなか案が纏まらず年末を迎えてしまいました。

年末の役員会で、平沼部長より最近オープンした松下電工ショールーム見学会の提案があり、パンフレットによる検討、費用・日程等についても検討した結果本決まりとなった次第です。

以前にも東京電力館や晴見でのジャパンショップ見本市の研修で東京へ行っているのですが、研修をするのにはいろいろな施設が集中している東京が中心になってしまいます。

参加者を募った結果十三人が参加、二月九日函館空港から全日空の便で空路東京へ一泊二日の研修旅行へ出発しました。

羽田空港よりモノレールそしてJRと乗り継いで午後三時に新宿西口松下電工ショールーム『ナイスプラザしんじゅく』に到着しました。場所は今話題の東京都庁ビル正面の向い、新宿モノリスビルの三階～五階を使用し、三階は照明とH.Aを中心に、四階は輸入照明・キッチン・住宅用の家電商品、五階は内外装材・バス・収納などの住設コーナーとなっています。

いずれのフロアもモデルルームを作り、大変説得力のある展示をしてありました。中でも、コンピュータを使ったシステムキッチンの模擬体験システム、いろいろなお客様のニーズに対応出来るように展示されているさまざまなオートメーションシステム等会場の中は二十一世紀を先取した様なモデルルームがたくさん並んでいました。

その中で、ダウンライトの取付位置や光源の種類の切換えで部屋のイメージの変化が一目で分る照明実験室は、仕事に大変参考になりました。また、光ファイバーを使ったプラネタリウムのような照明など、最新の設備のデモンストラーションを見学することが出来ました。

贅沢さの部分では、松下電工が窓口として輸入しているヨーロッパの照明器具の展示で数千万円のシャンデリアなど目の保養としても楽しめました。住宅設備のフロアでも建物の内外装材の展示や、収納家具、屋根・窓・水廻りなど快適な生活をするための住宅に必要な物がたくさん展示してありました。さらに展示照明器具の多さは、松下電工のカタログ中の殆んどの実物が実際に見れるショールームではないかと思われました。



案内担当者に商品の説明を受け、会場各コーナーに配置されている約三十人の美人のお嬢さんの話を聞きながら約三時間の研修を終え、夕暮の新宿街をコートを開いて『今頃、函館は寒いべな』と話しながら歩いて東口へ。焼肉『モランボン』で平沼部長を中心に懇親をあたため、浅草ビューホテルでの宿泊となりました。

今回の研修会を通して、昔は贅沢であった事が今では当たり前、確かに東京では物の豊かさや物の価値観が大都市と比べて違うようですが、照明器具一台の値段が建売住宅一軒分の器具込みの電気配線工事と同じ感覚で行なわれている様な商売感覚が強く感じられました。

又、札幌などで同社のショールームを見学した事があります。規模の違いをかなり感じました。地方都市でも東京と同じとはいかないまでも、それなりの規模のショールームがあっても良いのではないかと思います。

ともかく、組合員の皆様も上京の機には、ぜひ足を運んで見学される事をお奨めいたします。

最後に、印象に残ったのは、高層ビルが多くさん立ち並ぶ街並が、函館に着いても目に焼付いていました。



函館市安全都市推進委員会(会長・木戸浦隆一市長)は、三月二十九日市民生活の安全活動に功績があった函館市の六団体、二十三人に対し、平成二年度の『安全活動実践功労賞』を贈ったが、当組合は永年にわたり集団献血に協力したことから、函館赤十字血液センターの推せんにより衛生安全部門において表彰された。組合員ならびに従業員皆様の献血に対するご理解とご協力の賜とお礼を申し上げご報告します。

経営近代化研修会

テーマ 職場の活性化とリーダーシップ
 主催 北海道電気工業事業組合
 函館地方電気工事協同組合
 協賛 松下電工(株)北海道営業所
 講師 松下電工(株)経営相談室 仲野邦久氏

平成三年度の標題研修会が、三月三十日(土)正午より組合大会議室において開催され二十名(当初の申込者三二名)が熱心に受講した。

追悼記



山崎電気商会(株)代表取締役 役山崎正氏は、去る三月二十三日脳梗塞のため、七十九年の生涯を終えられました。

山崎氏は、昭和二年三月知内町湯の里尋常小学校高等科を卒業し、ただちに釧路市の電力通信内外線の工事を請負っている協立工業株式会社に入社、電気工業界への一歩を刻んだのであります。

昭和八年二月に釧路川水電株式会社弟子屈営業所に職場を変えましたが、昭和十五年九月同社が北海道電力株式会社と合併されるのを機に辞職、日本石油株式会社(株)の留萌工場建設現場に電気係として勤務しました。その後、戦争のため兵役に服し、終戦後の昭和二十一年十一月、長万部町国縫に於いて電気工事店を開業着々として業績を伸ばし、昭和四十年二月山崎電気商会株式会社を設立、現在地で営業を開始したのであります。

この間、昭和三十年五月に北海道電力株式会社の支店管轄区域の変更に伴ない、南北海道電気工業協同組合から当組合に移籍、以来八雲地区における先輩として指導に努力され、業界の発展に寄与されたのであります。

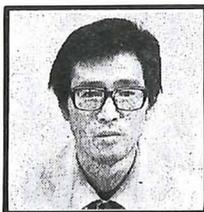
一方、昭和三十八年四月には、長万部町議会議員に当選、三期十二年間を勤めたほか森林組合、商工会、専門店会、信用金庫の理事を歴任し、地元長万部町の発展にも大きく寄与されたのであります。

昭和五十九年六月一日病床に伏しましたが、ご家族の皆様はじめ関係者をはじめとより、本人も再起を願って専心療養を続けて参ったのであります。本日不帰の人となられたことは、関係者一同惜しんでなお余りあるものであります。

るものであります。しかし、氏の残された業績は不滅の道しるべとなり私達を激励し、業界の一層の発展となることを信ずるものであります。

山崎さん、どうか安らかに眠り下さい。故人の生前の功績を偲び、謹んでご冥福をお祈りして追悼の記とします。

合掌



(有)古海電気商会代表取締役 役古海久生氏は、去る一月十九日不慮の事故により、五十一年の生涯を終えられました。

古海氏は、昭和三十三年三月、松前高等学校を卒業し、札幌市の関西機器販売(株)に入社しましたが、昭和三十六年七月に故郷の松前町に帰り、松前商工会に勤務しました。

その後将来の独立を志し、昭和四十二年七月地元の大久保電気(株)に入社、電気工業業界の一員としての第一歩を歩いたのです。

昭和四十五年四月に、やはり地元の佐々木電気工事店に移り修業を積み、昭和四十七年十一月晴れて独立古海電気商会を設立、翌四十八年五月に当組合に加入しました。

以来、古海氏は良心的にそして優秀な技術をもって業績を伸ばし、昭和五十九年三月(有)古海電気商会に組織を変え、電気工事を通じて地元松前町の発展に寄与されてきました。

昨年、長男の和哉さんも成人となり、愈々開花のときを迎える矢先の氏の急逝は惜しんでなお余りあるものであります。

古海さん、どうか安らかに眠り下さい。故人の生前の功績を偲び、謹んでご冥福をお祈りして追悼の記とします。

合掌

北海道電力(株)函館支店管内組合関連組織図 (平成3.5.1)

(函館支店)
支店長 黒田 正夫



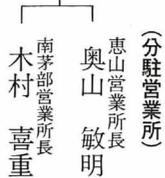
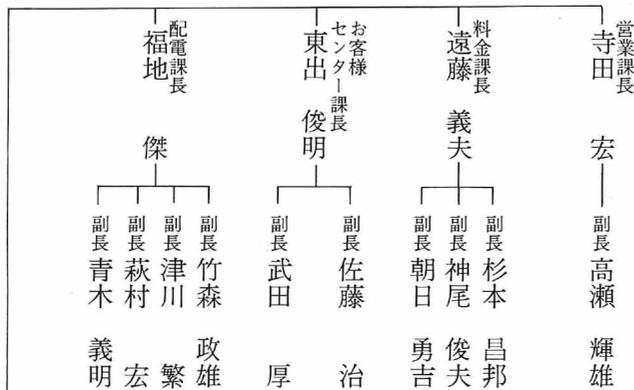
(拠点営業所)

函館営業所長
平尾 康二



次長
高木 宏幸

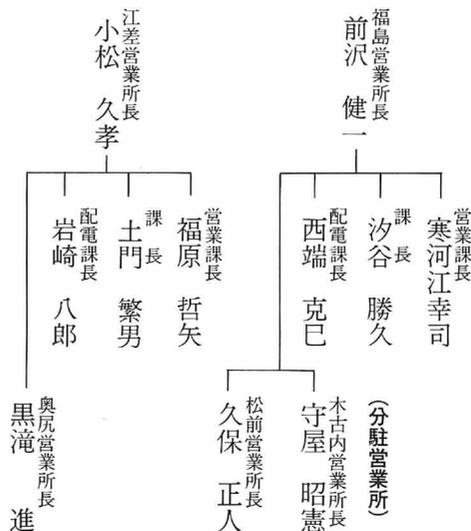
- 次長(技術) 大友 勲
- 次長(事務) 竹内 正明
- 総務課長 高橋 辰一
- 立地環境課長 夏井 孝男
- 労務課長 岡山 克彦
- 経理課長 飯塚 好徳
- 建築サービスマネージャー 佐々木 順一
- 七ツタマネージャー 廣橋 隆史
- 函館電力所長 奥山 理一郎
- 次長



(衛星営業所)

- 八雲営業所長 新谷 宏 (Shinya Hiroshi) 副所長 萩野 久夫 (Haginno Hisuo)
- 北松山営業所長 仲村 栄蔵 (Nakamura Eizō) 副所長 大浅 修孝 (Oshino Shūkyō)
- 森営業所長 菊地 幹郎 (Kikuchi Kan'ryō) 副所長 高八卦 正光 (Takahachihachi Masamitsu)

(電業所)



- ◎函館営業所管内 七飯電業所 職員 田島 光雄 (Tajima Mitsuo)
- ◎八雲営業所管内 大野 職員 本多 一治 (Motohichi Ichijū)
- ◎北松山営業所管内 瀬棚 職員 渡辺 松義 (Watanabe Matsuyoshi)
- ◎福島営業所管内 今金 職員 松本 一治 (Motohichi Ichijū)
- ◎江差営業所管内 上ノ国 職員 松本 一治 (Motohichi Ichijū)
- ◎分駐営業所 厚沢部 職員 有田 仁三郎 (Arinori Ninzō)
- ◎分駐営業所 奥山 職員 有田 仁三郎 (Arinori Ninzō)
- ◎分駐営業所 南茅部 職員 有田 仁三郎 (Arinori Ninzō)
- ◎分駐営業所 木村 職員 有田 仁三郎 (Arinori Ninzō)

◎ 註—森営業所管内はなし

時代の变化にこたえる感性
総合販社

東芝E&S北海道株式会社

函館支店

040 函館市大繩町二十二番十四号
電話 四一―一―二二四一

A&I
快適を科学します

松下電工株式会社

函館出張所

函館市西桔梗町五八九番地一〇七
電話 函館 四九―一五二五

工事材料・電化製品

丸晃電気株式会社

函館市西桔梗町五八九―四九
電話 四九―一三―一三

電気設備機器資材の総合卸商社

大興電機株式会社

本社 函館市西桔梗町五八九―一〇七
電話 代 四九―一六二―一〇番
営業所 山越郡八雲町内浦町一〇七
電話 (0133) 三三三―六九番

電設資材・機電総合卸

進和電機株式会社

040 函館市松川町三四―一三
電話 四二―一六二―三一

未来環境を語る・造る

株式会社工三ヤ

函館営業所

函館市富岡町二丁目四二―一七
電話 四三―一三〇―一(代表)
本社 札幌・営業所 釧路、苫小牧

電気工事材料
音響通信機器 総合商社

石垣電材株式会社

函館営業所

本社 060 札幌市中央区北六条西二丁目二番地
支店 063 苫小牧市新中野町一丁目三番二号
函館営業所 040 函館市中島町六番一五号
(0133) 五五―四二二番(代)

松下電工(株)代理店
日立電線(株)特約店

北進商事株式会社

函館市の場町十九番二十二号
電話 五五―一三二―〇一五
FAX 五五―一三七―四一